

「知識(形式知)と

経験(暗黙知)」を軸に

責任とプライドある

高度急性期看護に取り組む

平井三重子さん

独立行政法人労働者健康安全機構

関西労災病院 看護部長

一九五八年愛媛県生まれ。八〇年岡山労災看護専門学校卒業、愛媛労災病院勤務。九九年同看護師長、二〇〇六年関西労災病院看護副部長。〇九年早稲田大学人間科学部健康福祉学科スクール卒、新潟労災病院看護部長。一一年大阪労災病院看護部長。一五年東京労災病院看護部長。一七年より現職。瑞宝双光章を受賞。一八年東京医療保健大学大学院医療保健学研究科修士課程修了(看護マネジメント学)認定看護管理者。



兵庫県尼崎市の西北部、六甲山を仰ぐ風光明媚(めいび)な武庫川沿いの地に関西労災病院は建つ。ベッド数六四二床。勤労者医療を担う、地域医療支援・地域がん診療連携拠点病院として、阪神圏域における高度急性期医療を担う中核病院だ。「当院に救急搬送される患者さんは年間約七〇〇〇人。看護部は「生命と生活を大切に、信頼される看護をすべての人々に」を理念に、患者さんやご家族に寄り添い(感じる)、自己決定を支援し(見える)、常に新しい知識に裏付けられた(進化する)看護の提供を目指しています」と話すのは、看護部長の平井三重子さん。高い質とスピードが求められる急性期医療の現場で、看護に何ができるのかを模索し続けている。「急速な進化を続ける医療現場で深い洞察力と判断力を持つために「知識(形式知)と経験(暗黙知)こそが、こそ」というときにブレないための軸となります。私自身が短期海外研修や大学院などで感じた、学ぶことの大切さをできるだけ多くの看護師に伝え、学ぶ場を持つてもらいたいと考え、充実した教育と「リソースナース」の育成に力を注いでいます」

「リソースナース」とは、日本看護協会が認定した専門・認定看護師のことで、現場の看護師たちを専門知識や技能でサポートする。現在、関西労災病院では一四人が活動。さらに大学院の修士課程を修了し、特定行為が可能な診療看護師も五人在籍する。「看護部長として大切にしているのは、語る、ことと、聴く、こと。明確なビ

ジョンを全職員に分かりやすく伝え、一人二人の声を傾けることを心掛けています。また個人のキャリア発達を支援するためのキャリアラダーや目標管理の導入、部署のカギを握る看護管理者を育成するためのコンヒェンシーモデルの活用を行っています。何よりスタッフが元気に働ける職場環境を整えることにも力を注いでいます」

そんな平井さんが看護師を目指したのは高校三年のとき。風邪で受診した病院の看護師の優しい笑顔と温かい対応がきっかけだった。「つらいときにほっとする存在ができてきたな、と思ったことが看護師としてのスタートです。だから今でも、患者さんにきちんと向き合って言葉や心のキャッチボールができる看護師でありたい。布団がめくられていたら、忙しくてもスッと直してあげられるような気がつかいができる品格ある看護師に育ってみたいと思っています」

団塊の世代が七五歳となり後期高齢者が急激に増加する二〇二五年問題を控え、関西労災病院でも入院患者の半数を七五歳以上が占める。平井さんの取り組むべき課題も多いが、休日にはスキーや登山などのアウトドアスポーツ、ロックのライブやプロレス観戦でハワーを蓄えている。

「急性期看護の現場は責任が重く困難もありますが、深い洞察力と判断力を持ってそこに携われることは私たちの大きなプライドとなっています。これからは人が生きるための人材育成、そして人を生かすための職場づくりに尽力していきたいと思っています」